

令和6年度鳥取県西部地域歯科保健推進協議会 報告書

- 1 日時 令和7年1月23日(木) 午後2時から4時まで
- 2 場所 西部総合事務所講堂(1号館2階)
- 3 出席者 合計32名 (委員15名)、市町村11名、事務局6名)
- 4 内容

概要(主な話題)

- ◇歯科保健事業について、県民の方や関係機関への周知の徹底が必要。周知の窓口を広げる必要がある。
- ◇ふしめ検診受診者は定期的にケアしている方が多く、定期歯科受診してない人の掘り起しは出来ていない。定期歯科検診に繋げるきっかけ作りを検討する必要がある。
- ◇フッ化物洗口は早い時期から始めた方がよいため、許可の得られた未実施園に対し鳥取県歯科医師会が来年度訪問説明を実施する。フッ化物洗口実施の判断は各園にさせていただく。フッ化物洗口の推進を図っていくため、米子保健所から各関係機関に御協力をお願いした。

(1)会長と会長の職務を代理する者の選任

立候補はなく、事務局推薦により会長に森脇委員、会長の指名により職務を代理する者に森本委員が選任された。

(2)報告事項

※各項目について事務局が資料説明した後、委員と意見交換を行った。(○:委員からの意見、●:事務局意見)

- ①前回会議の近年の開催状況について **資料1**
- ②歯と口腔の健康づくりととりプラン(第2次)の策定について **資料2**
- ③西部圏域各種歯科健診結果について **資料3**
- ④西部圏域歯科保健事業について **資料4-1** **資料4-2** **資料4-3** **資料4-4**

- 施設に入られた高齢者の方には口腔機能向上についての行政の関りが薄い印象を持っている。鳥取県長寿社会課が行っている「高齢施設における口腔機能向上推進事業」については周知がされていない。行政がもっと働いて、指導することにより関心度を高めていくことが必要。
- 糖尿病の連携で医科歯科連携を図っているが、うまく連携が図れていないのも事実。糖尿病患者もあまり歯科に興味を持たれていない。歯科保健の周知徹底をしてもらえたらと思う。

(3)協議事項

- ①成人期における歯科保健課題に係る推進方策について **資料5**
- 医師会とか、このチラシ(健康講座・教室の案内チラシ)を置かせていただければ、配布ができる。周知の窓口を広げていただきたい。(検診を)する人は必ずするが、だいたい、勤労者の男性は検診を受けられる方が少ない。非常にそこがいつまでも課題として残ると感じる。
 - 歯科もふしめ検診に来た人は定期的にケアしてる人だったというケースが多い。重複しているだけで、新たな掘り起しは出来ていない。ここをどう手を打っていくかというのが一つの課題。
 - 一年間で歯科健診を受けた人が半分近くいる調査データがある。受けている人は継続的にやられている。(歯科健診を継続してやる)そのきっかけ作りがあれば。きっかけというのは歯科医院の方で何かあるか。

○その(一年間で歯科健診を受けた人の割合)パーセンテージを上げていかないと話にならないと思う。そこをなにか周知させる方法で、行政の方で動いていただけると嬉しい。

●最終的にどういった形になるかわからないが、クリーニングしてもらってお口がとてもすっきりする。何かそういうふうに「いい思い」があるときかけになったりするのかなと思う。そういった機会が皆さんにあると少し広がる可能性もあるのかなと思う。

②乳幼児期・学齢期におけるフッ化物洗口の推進について **資料6**

○フッ化物洗口がコロナの時期にストップしたということだが、フッ化物洗口はしているけど、歯ブラシはしていないとか、そうゆうことのないように皆さんの方で確認していただきたい。

○米子市の養護教諭からは「仕事が増えた」「負担が大きい」という意見は出ている。養護教諭の対応として、誤飲、嘔吐がある。そこが不安と思っている。今後、米子市でも導入されるが、フッ素があるから歯磨きをしないという認識を子供たちが持たないように指導を継続していくことが必要と思う。

○ほぼ先生に負担がかからないようにシステム化されていると聞いている。なので、やり方を聞いていただいて、それから判断していただけたらと思う。

○園児数が多い園は、年長、年中で150人くらいいて、それを一斉にするのは難しいと思う。週1回でも大丈夫か。

○学術的には少なくともいいから回数が多い方がいい。ただ、無理なら、週1回から始めて、最終的に週5回にしていたら。

●濃度によって週1回法と週5回法がある。4歳5歳児に対しては、濃度の低い週5回法を推奨している。週1回法は小学校1年生以上を推奨している。

○来年度から各園に回られるということだが、それはもう決められたことで、一斉にやりましょうということか。

●来てよいと許可が得られた園に対して実施予定。

○働き方改革のことや保育教諭の不足もある。現実的に上手くできるか各園で検討しないと難しいと思う。

○結果論として(フッ化物洗口は)早くから始めた方がいい。

○コロナで(フッ化物洗口を)中止して、再開しないことについて「小学校でしていないのに、小さい子を預かる私たちがやるには」ということを言われた。幼稚園、保育園から小学校という感じで広げていくのは大変なのかなと話を聞いて思った。

○学校の中で口腔衛生に関する話があったら、フッ素でむし歯は予防できるが、歯肉炎予防はできないことを再度、生徒に話していただけたらと思う。

(4)その他

○口を開けている子が多い。そうすると舌が上顎から離れてしまう。口呼吸になるとアレルギーや扁桃やアデノイドになり、鼻から呼吸ができなくなる。そうすると舌が落ちてくる。すると、顎の成長方向が下に行く。すると歯列狭窄になり、舌が沈下して呼吸ができなくなるので、睡眠に影響を及ぼす。睡眠に影響を及ぼし、無呼吸になると、2歳～4歳で重度の睡眠障害を起こす。中学生の時のIQに影響を及ぼすというデータも出ている。歯科医師が動き始めるのは、母乳保育時の助産師とのタイアップはできないので、それが遅れたら、次は6歳以降になる。睡眠がしっかりできているか、寝相が悪くないか、チェックしてもらい、医科、小児科にチェックしていただけたらいいかと思う。

(5)閉会